



## わたしたちが 習得すべきことは？

最近、当法人理事で、職員育成に  
関して何かと協力頂いている佐  
々木炎先生(牧師であり、NPO  
法人「ホッとスペース中原」(注1)  
代表)から、過日お願いしていた  
管理者研修(演題は、「施設長に期  
待される働き」に関して、こんな  
メールを頂きました。

「いつも大変お世話になっており  
ます。遅くなりましたが、施設長  
研修のパワーポイント(以下、PP)  
資料とレジュメを添付します。確  
認して頂きたいのは次の点ですの  
で、よろしくお願いします。

「施設長に期待すること」の、  
① 経営者視点を持つようにするこ  
と(P.P資料、6枚目の右上)

② 多機能化をする件(7枚目右上)。  
私自身は、施設長は『運営者』  
だけではなく、『経営者』の視点

発行  
社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園  
〒421-0412 静岡県 牧之原市  
坂部 2151 番地 2  
TEL:0548-29-0221 FAX:0548-29-0157  
E-mail:honbu@yamabatogakuen.jp  
http://www.yamabatogakuen.jp/  
郵便振替 00800 - 6 - 14641  
預備年額 600 円(千共) 1部 100 円(千共)  
(送料・消費税込み)  
寄付金の一部に購読料を含む場合が  
あります。



を持つこと、また、今の事業をす  
るだけではなく、今の事業を基盤  
にして多機能のサービスを展開す  
ることを求めたいと思います。こ  
れについて研修で語って良いのか、  
判断をしていただければ幸いです。  
よろしくご検討をお願いします。」

実は私は、前夜仕事に追われて  
まともに睡眠をとっていませんで  
したが、佐々木先生は私以上に多  
忙であるにもかかわらず、いつも  
当法人のために積極的に協力して

下さっているのです、すぐご返事を  
と思い、今にも閉じそうな臉を開  
き、両目を凝らして拝見しました。

PP資料には、今後の人手不足  
の状況が図解され、これからの利  
用者は、団塊世代、団塊ジュニア  
世代へと移り、在宅サービスが主  
流になって、脱施設化が加速され  
るだろうこと、このような環境変  
化や制度改正の中で、社会福祉法  
人にも経営の多角化や新規事業へ  
の取組みが促され、施設長たちも、  
経営者視点を持つことや、多機能  
化を考えることが求められている  
といった内容だと分かりました。  
広い視点からの講義内容で、特に  
異存はなかったのですが、ふと気  
づいて、こんなご返事をしました。

「佐々木先生、レジュメの内容  
に関して、特に異議はありません  
が、スタッフの中には、キリスト  
教精神を基盤にした事業と、そう  
でない事業とは、どこが違うのか  
という思いを抱いている人もいま  
すので、そういうことに触れてい  
ただくのもよいかと思えます。但  
し、可能であれば、でよいです。

医者が患者に医療を施す場合に  
は、医者への信仰よりも、病人をい  
やす力を持っているかどうかが問  
われるでしょう。同じように、福

社関係者も、信仰の有無よりも、  
人を喜ばせ幸せにすることができ  
るかどうかが問われると思えます

その一方で、本当の癒しは、や  
はり神様に繋がっていることだと  
信仰者は承知しているので、クリ  
スチャンの医者は、病人が肉体的  
な健康を取り戻すだけでなく、魂  
も健やかにになり、人生に希望を  
抱いて歩めるよう、祈るでしょう。  
クリスチャンの福祉関係者にも同  
じことが言えるだろうと思います。

最近、阿部志郎先生のユーチュー  
ブ講演を拝見したのですが、その  
中で、ドイツのペーテル(注2)  
を訪問した時、阿部先生が、責  
任者に対して『予算はいくらです  
か?』と質問したところ、『知りま  
せん』という返事だったのでびっ  
くりしたというお話があり、たい  
へん心に残りました。

このエピソードを聞くと、会計  
の学びも必要ないということにな  
りそうですが、そういう意味では  
なくて、『知りません』と答えるく  
らい、会計以外のこと、それも一  
番大切な、隣人を愛することのた  
めに心を砕き、全力を注ぎ、自分  
ができたことについては神様におま  
かせしていたということかなあと

思ったのでした。

長谷川保先生(注3)のことを、西村一之牧師が、『あの人は、存在の中心に神さまがいなければ、我欲の強い成功者、実力者だったかもしれないが、中心に神様がいたので、することすべてが、他の人の益のために実った』といったことを言っておられました。人の賜物は多様なので、神を第一としながら、何でも学び、何にでも挑戦してよいのだらうと思います。そういう意味で、佐々木先生の講義内容についても、(経営的視点を

持つ、多機能化を考えるなど)、これでよいと感謝しています。」

こう答えた私の返事に対して、佐々木先生からはこんな返信が届いたのですが、それがまた、隣人を愛することに關して、非常に考えさせられる内容だったので、ご紹介することにした次第です。

「長澤理事長、ご連絡をありがとうございます。ご指摘は本当にそう思います。改めて、『牧ノ原やまばと学園』らしさと『キリスト教精神』を視野に入れて、研修させて頂きたいと思われました。

さて私は最近、マザーテレサの言葉について考えさせられました。「人生は愛すること、そして、愛さ

れることの喜びそのものです。愛は『与えること』で、一番よく表現されるのです。愛するとは、自分が痛むまで与え尽くすことです。」

「与えることが痛み、傷むまで与える」について、私が教えられたエピソードを書かせて頂きます。

我が家では、小さい頃から両親のいない貧困の在日フィリピン人の女の子を娘同様に支えています。娘と同級ですが、私の実の娘は、今年大学を卒業し、卒業旅行で三万円かけて京都の旅行に行きます。小さい頃から娘のように育ててきたフィリピン人の娘にも、いつも

しているように実の娘と同じものを提供しました。娘が卒業式の衣装、と言えば、フィリピン人の女の子にも同等のものを。靴や洋服、脱毛、大学授業料…、同じように愛を注ぎ提供してきました。これ

からも『娘のように』が続きます。今年度、私たちの教会に、献身者が二名来て実習しました。一名は、二十六歳の在日アルゼンチン人で、三月に大学院を卒業した貧困者です。もう一名は二十五歳の同じく大学院一年生の貧困者で、私が今年度授業料六〇万円をお貸ししました。そして、牧師として、援助者として、『自分が痛むまで与

え尽くす』ことを、二人の神学生に示すことを考えました。

大学院卒業の在日アルゼンチン人の人には、卒業旅行費三万円と、(ホッとスペース中原に就職するので)新生活に必要な様々なものを買い備えてあげました。問題は、大学院一年生の貧困者です。本当は六〇万円をなかつたことにすることでしょうが、躊躇しました。

マザーテレサが言われた、『愛とは、与え尽くし、痛むほど与えること』が、できない自分の愛のなさに気づかされました。まさに愛を説きながら、愛を実践できない、思い上がりの自分に愕然としました。エゴは消えない、そう思わされました。そして、愛を痛むまで『与えてくださっている』主イエスに感謝する時にもなりました。

六〇万円はどうなったか、それは想像に委ねます。まだまだ成熟しない愚かな私です。引き続きよろしくお願いいたします。」

これを読んだ私は、昔、人に貸したお金が気になって、返済日を過ぎても返してくれないので、こちらから催促して返してもらったことを思い出しました。今なお、「痛むほどに与える」とは、ほど遠い我が身を思い、これからわたしが

習得?すべきことは、この生き方かなあと思われたのですが、あまりにもレベルが高くて、それこそ、前へ進むのを躊躇します。ですが、イエス様がともに歩んで下さることを感謝し、エゴに甘えな

いに進みたいと思ったのでした。

〔理事長〕長沢道子(注1)「ホッとあたたまるスペースをすべての人と共有するために」をモットーに、高齢者も障がい者も元受刑者も外国籍の方も、一人一人が誕生から死に至るまで平安に暮らせるよう包括的サービスを提供。

(注2) ドイツにある総合施設・共同体で、百五十余年の歴史をもつ。てんかんの子どもから始まり、今では障害者だけでなく、様々な人が暮らしている。町には神学校を初め、各種の普通学校、特別支援学校、職業訓練校があり、パン屋、自動車部品工場、農場、ホテル、レストラン、食料品店等々で、多くの障害者が働いている。

(注3) 聖隷福祉事業団創設者で衆議院議員も歴任。一人の結核患者をケアしたことがきっかけで、その後、医療、学校、福祉施設を有する巨大なグループに成長。有料老人ホームや未熟児センター等、日本初の事業も開設した。

## 吉田集会所とやまばとの思い出

柴田 ひさ子

五十年以上前のことである。幼いわたしが縁側で遊んでいると、ひとりの女性が現れた。母に用があるというので呼んでくると、しばらく母と話してから帰られた。

母によると、その人の名は小沢香さん。教会の日曜学校に誘ってくださったとのこと。

「行ってみる? いいお話が聞けるらしい。きつと、お心のきれいな人になれるよ」

母は日曜学校を道徳教育か情操教育の一環と捉えていたようだ。当時子どもを教会に送り出していた一般家庭の多くは、こうした考えだったと思われる。

ともかく、それがきっかけで、わたしは教会の子ども礼拝に出るようになった。榛原教会の子ども礼拝は榛原と吉田の二か所で行われていた。わたしは近所にあった吉田集会所の礼拝に出席した。

小沢さんは元々榛原の方だが、浜松の高齢者施設に入るまでの短期間、吉田集会所に住まわれた。集会所の管理をしつつ、子どもを

教会に招くご用にあたられた。

榛原教会の当時の牧師は、やまばと学園の創設者、長沢巖先生であった。わたしが集会所に通い始めたのは、先生がやまばと設立の準備を進めていた頃である。

まだ小学校に上がる前のこと。ある日の礼拝後、完成したばかりのやまばと学園の建物を見に行くことになった。その日出席していた数人の子どもたちが車に乗せられ、集会所を後にした。十分ほど山側に走り、東名高速道路の下をくぐり急な坂道を上るとすぐ、白いコンクリートの建物があった。そこが「やまばと」だと言われた。

この時のことを思い出すと不思議な気持ちになる。なぜ、先生方は、わたしたちをそこに連れて行ったのだろう。そこへ行って、わたしには「やまばと」が何なのか分からなかった。それほど幼かったのだ。ただ、この建物ができたことを先生方がどれほど喜ばしく思っているかは伝わった。

以後、何度もそこを訪れた。夏

休みには、やまばとを会場に夏期学校が開かれた。普段は別々に礼拝している榛原と吉田の子どもたちの合同キャンプである。

最初に参加したのは小学一年生の時だった。まだ新しい学園の建物の一室で、同じ年頃の女の子五、六人が持参したタオルケットにくるまって雑魚寝した。裏山で行われたキャンプファイヤーでは、細い竹の棒の先にソーセージを刺して、焦げ目が付くまで焼いて食べた。三年生の時に成人寮の建物ができてからは、そちらも使われるようになる。学園の建物から、トンネルのような通路を通って成人寮に行けるのが不思議でワクワクあり、気持ちのよい場所だった。

教会には他にも様々な行事があった。花の日には榛原総合病院を訪問。病室を回って、入院患者に花束を差し上げる。今ではお見舞いに生花を持つていくのは禁じられていくことが多く、こうした経験をする機会もないであろう。

収穫感謝の日は、自宅で療養されているお年寄りを訪問した。「来週はお見舞いに行くので、畑で採れたお野菜か果物を一つずつ持ち寄りましょう」と言われたのだが、わたしは収穫感謝の意味をまっ

たく分かっていなかった。それで、母には何か一つお見舞いの品を用意してと伝えた。翌週、母に差し出されたのは、何と「どら焼き」。それを持って集会所に行くと、先生が笑いをこらえつつ言われた。

「あらあ、ひさ子ちゃんのおうちの畑では、どら焼きが採れたのね」

中学生になると部活動のため礼拝には出られなくなったが、わたしは学校でも、教会ややまばとの話をしていた。そこで担任の先生が、クラスでやまばとに奉仕に行くことを提案してくださった。

けれども、訪問は実現しなかった。背景には、学園が直面していた園児の通学問題があったようだが、それ以前に中学生の意識の問題もあった。ある生徒は差別発言をして、先生のビンタを食らう羽目になった。まだ障がい者への理解が進んでいなかったのである。五十周年記念誌には、若い人々がやまばとを訪問し、入所者と交流するようすも記されている。時代と共に環境が整えられたことを、うれしく思う。やまばとがこの地で先駆的役割を果たしたことを思い、長年支えて来られたすべての方々に心より感謝申し上げます。

## 希望寮厨房改修工事

希望寮 塚本 真由子

希望寮の厨房は、旧成人寮の建物内にあり、法人内では一番古い厨房です。建物の老朽化や設備の不具合から、厨房を希望寮内に移設することになりました。現在、その改修工事の真っ只中です。

条例により、希望寮はこれ以上の建て増しができないため、限られたスペースの中でどこに、どのように厨房を移設するか、協議を重ねました。結果、希望寮配膳室だった場所が厨房となることになりました。

広さは現厨房の1/3程度となり、希望寮食堂も狭くなります。限られたスペースを有効活用していけるよう努めていきたいです。

厨房と食堂の距離がなくなり、厨房職員と希望寮職員の連携がとりやすくなることはメリットだと感じています。

日に日に工事が進んでいき、2月末現在、配膳室の床は新しいコンクリートが舗装されました。三月末には完成予定です。

馴染み深い厨房や配膳室との別れ



(管理栄養士)

は寂しくもあります。私がつまえる何十年も前からあったであろう厨房。これまで、何人の方々がこの場所で従事し、何人のご利用者の食を守ってこられたでしょうか。たくさんの方々の思いが出がまったこの場所に感謝し、うまれかわった厨房や配膳室で、また新たな思い出を作ってきたいです。

厨房移設にあたり、メニューや作業内容の見直し等、まだまだクリアしなければいけない課題は多々あります。ご利用者にとって最大の楽しみである「食」を守るよう、日々邁進していきたいです。

## 福祉の出張授業 in 勝間田小学校

デイサービスセンター裏 大石 由香

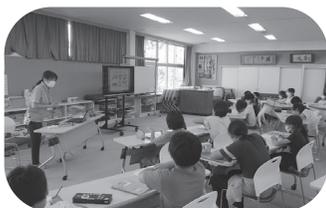
勝間田小学校より五年生の福祉の授業依頼があり、十月七日に職員四名で行って参りました。

初めに、真菜の紹介とデイサービスの一日、利用者さんを支援する上で心がけている事をパワーポイントで説明しました。



しっかり聴いてくれるかな？

と、とても不安でしたが、授業が始まると私たちの話を真剣に聴いてくれて、時には突っ込みが入ったり、とてもよい反応でした。福祉や介護に少しでも興味や関心を持って楽しんで学べるよう、授業の途中に真菜劇団の「およね&まっちゃん」の寸劇



を交えて皆さんに観ていただきました。真菜のスーパースターの登場に皆さん大爆笑で、予想以上に盛り上がりました。脳ト

レ体操をやる場面では、大勢の子供たちが前に出て一緒に参加してくれたので、笑いが絶えない楽しいひと時となりました。



後半は二手に分かれて、車イス体験と高齢者の疑似体験。車イスの操作や、声の掛け方、注意点を伝えると、皆さんしっかり声掛けをして、真剣に取り組む姿が印象的でした。

今回は「介護する側、される側」のそれぞれの気持ちや、思いを伝えることが目的でしたが、皆さんが真剣に取り組む姿を見て、こちらの思いを受け取っていただけのように思いました。

最後に、やまばとの「理念」と「私たちの願い」を伝えました。「私たちの働きとおして、障がい者や高齢者の命の輝きを伝えていきたい」という願いに、先生方も深く共感されました。

今後も勝間田小学校の皆さんと、交流が出来ることを楽しみにしていきます。

(主任相談員)

### 社会福祉法人協働による食糧支援

クライス・すずらん・シャロム

山脇世津子



二〇二二(令和三年三月)の牧之原市社会福祉法人連絡協議会で「社会福祉法人協働による食糧支援」に

ついて会議が開かれ、真菜の吉田施設長と共に参加させていただきました。

当日は、リストラ後の仕事が続かず、再就職先も見つからなくなっただけでは賄えずガスや水道が止められ財布には数百円しかない...という事例の紹介がありました。この事例は特別ではなく誰にでも起こりうる事です。自立支援にとつて『生きる意欲』『働く意欲』のエネルギーとなる食糧確保は大変重要なのです。しかしながらコロナ禍で支援件数が増え、フードバンクによる食糧供給が危機的状況に陥った事から、

法人間連携によ



る食糧確保が検討されることになったわけです。

参加法人の中には既に定期的な食糧支援に取り組んでいる所もあれば、職員数が少なく対応については協議が必要という所もありました。私たちも会議に参加はしたものの動き出せずにいましたが、五月に緊急の食糧支援要請があったため、急ぎ学園全体に支援の呼びかけを行いました。



各事業所から食糧が届けられ、六月中旬には牧之原社協に渡すことが出来ました。この他、真菜では十二月と二月に独自の支援活動を実施しています。

福祉施設はどちらかというと「寄付いただく」ことが多く、生活困窮者の方への支援は限られていたかと思えますが、今回の事を良い機会として、今後も食糧支援の活動を継続していきたいと思っています。生活困窮の状況にある方々の生活が一日も早く元に戻れますように願っています。

(施設長)

### 笑いヨガ活動

笑いヨガ認定インストラクター

塚本英夫

私は笑いヨガをするとき皆さんに「面白くなくても笑うんですよ」と伝えていきます。なぜなら人の感情は行動に引っぱられるからです。

「みんなと笑っていたら悩み事がどうでもよくなっちゃった」そんな言葉をよく聞きます。だから先に笑うって大事なんです。

私は笑いヨガを通して皆さんに「心がときめく瞬間」を増やしても「ええたら」と思っています。

心がときめく瞬間は笑っているとただけではありません。

大好きな歌を歌う、踊る、懐かしい映画を見る、大好きな有名人を応援する、思い出を語る...。そんなときにこぼれる皆さんの笑顔が本



当に魅力的です。

人が生き生きと輝いている姿を見るのは幸せなことです。

こんなことがありました。ある施設の利用者さんから「サックスを吹いてみないか?」と、かなり年季の入ったテナーサックスを手渡されました。そして「俺が生きているうちに1曲吹いてくれ」と。

彼は若い頃、漁師をしていたそうです。遠くの海まで出かける時にはいつもサックスを持参して立ち寄った漁港で吹いていたそうです。そんな思い出の詰まったサックスを私に譲るといいます。施設長と相談して譲り受けることにしました。

「音がピーピーなっちゃうんですよ」「それは力が入りすぎだよ」「いつも嬉しそうに教えてくれます。いつの日か彼の大好きなサム・テイラーの曲を披露できるようにになりたいです。」

笑いヨガセッションの主役は参加してくれる皆さんです。

皆さんの心からの笑顔を引き出せるようこれからも精進していきます。

# 歩みのあと

(1月1日〜2月28日)

## ●全体的なこと ( )は実施日

▼「労働関連法改正事項」について、顧問労務士小山圭子先生による説明。(1/27)／主任等を対象にしたスローパージョン最終研修(1/29)／虐待防止委員会。(2/16)／第三次補正予算に関するヒアリング。(2/28)3/4

## ●個別のニュース

《法人》大関農園様がたくさんのみかんを寄贈くださいました。(1/25)

《垂穂寮》新年会、ご利用者の長寿祝や成人祝。演奏やダンス、漫談など。(1/23)／島田市第四地区の民生委員の皆様にご挨拶(石川森田)。(2/2)／島田市第二中・年生に福祉のお話(大畑)。(2/14)

《みぎわ》初詣。(1/1)／節分。力いばい豆を捨ける。(2/3)

《野ばら》生活ケア部門フレッシマ交流に参加。(1/18)

《やまばと希望寮》厨房改修工事開始。(1/19)／男性利用者1名濃厚接触者となり、隔離対応。(1/21)30)／コロナ追加接種。(2/3)17)／節分行事。(2/13)

《わかばもくれん》フレッシマ交流会に参加。(1/18)／濃厚接触者が出たため、通所等規制(1/21)30)／もくれん男性利用者1名聖ルカホームへ転出。(2/28)／コロナ追加接種。(2/3)17)

《さざんか》誕生会。(1/21)／宮美飲食事会感染予防のため施設でリッチなお弁当。普段と違うと大喜び。(2/18)

《カサブランカ》防災訓練。(1/26)／節分。恵方ロールで厄を払う。(2/3)

《希望の家》成人式。家族も出席し抱負を誓う。(1/10)／交通安全教室。指導員からルールマナーを教わる。(1/27)／歯科衛生士から歯ブラシ指導。年2回を継続中。(2/9)

《ふれあい》新年会。小グループで初詣。(1/28)／歯磨教室。(2/17)

《なのはな》自分でおにぎりを作って食べる。「家でもやってみよう」と良い体験に。(1/24)

《あさがお》あさがおしまし。井口自治会長様、民生委員様等10名程度参加。(1/8)／青野先生リフレッシュ体操。毎回工夫を凝らした楽しい体操。(1/11)／各班別に色々なゲームを楽しむ。(2/11)

《WooCやまばと》4月からパンの種類減少。出来るだけ利用者が製造できるよう改善。／材料費の高騰等によりお菓子の値上げ。(1月)／送迎利用者増加のためルート再検討。熱発者への対応を検討。(2月)

《コスモス》成人式。お祝いされる度に「ありがとう」と笑顔で感謝。(1/14)／コスモスの今後について説明会。(2/11)は職員対象。2/12は保護者相談支援事業所対象)

《かたくりの花》新年会。書初め。今年の二文字を発表。(1/14)／成人式。(1/14)／スウィー

トポテトカナッペを作る。(1/27)／節分。福の神登場で、楽しい時間を過ごす。(2/3)

《さくら》新年会。思い思いに新年の決意発表。(1/4)／吉田町福祉計画策定に係る団体ヒアリング。(2/2)

《マーガレット》誕生会。お祝いされて笑顔。(1/20)／コロナ感染者が出たため、行政報告や消毒など。(1/21)24 吉田町、1/24 県障害福祉指導班 館内消毒(1/26 帝装化成)／節分。鬼やおかめのピンを投げ鬼退治。(2/2)

《レタスクラブ》爪を作つて、爪あげ。(1/13)／新しい仕事に向けてメモ取り練習。(2/8)

《生活支援センターやまばと》牧ネットミーティング。(1/26)／牧之原市地域生活支援拠点説明会。(1/27)／圏域重心中会したははなそく会。(2/7)

《聖ルカホーム》深夜業務者健康診断。(1/19)26)／ケース検討会。(1/28)／コロナ追加接種。(2/4)8)25)2月7日

《シロートステイ》利用者1名、コロナ感染確認。のち利用者3名、職員3名感染。8日以降の利用を中止したが、7日時点で利用していた6名は利用継続。9日再度抗原検査。新たに利用者3名と職員1名感染確認。7/20日受入制限。21日から通常営業。

《グレイス》「自分で焼いた餅を食いたい」の希望で、磯辺焼きを食べる。(1/21)／節分はコロナ追加接種後。激しい動きを避け、鬼がエントを回り、紙芝居を披露。

《相寿園》コロナ追加接種。渡辺医師により全員無事終了。(1/14)

26)／節分。年女の一人は入院中。その分年男が頑張る。(2/3)

《ぎんもくせい》相談員が社会福祉士資格取得に向け現場実習中。(1/17)／入所式。(1/8)／コロナ追加接種。(2/3)4)

《真菜》新年会。甘酒を頂く。(1/4)6)／笑いヨガ。(1/5)／初詣&よけ市でお買い物。(1/18)19)／利用者1名陽性判明。(1/25)／臨時休業。(1/26)2)1)／バレンタインデー。男性から女性へモールの花束とチョコをプレゼント。(2/14)

《すずらん》坂部サロンに講師として参加。引き続き協力要望も。(1/14)／節分。(2/3)4)

《さくらん》コロナ追加接種。(2/25)

《シャローム》ケアマネ試験合格者研修をサポート。(1月)／コロナ感染症影響でサービステキ、本人や家族への助言など連日電話対応。(2月)

《オリーフ》市による活動評価ヒアリング。(2/14)／県の業務評価研修。(2/16)／業務委託方針説明会。(2/21)

《ぶどうの木》年賀状作り。自作ポストへ投函。職員の飛脚が配達。(1月)／節分。「鬼のパンツ」のダンスなど。(2/1)4)

《ボランテニア活動》★活動者名(敬称略、順不同)個人 内藤きせ、大川原富美子、吉崎伸男、井部、小島茂美、大塚春美、尾崎淑子。

団体 岩本造園 庭木の手入れ、草刈り、駐車場通路整備、JIA(インナ)女性部(どんぐり)、さくら会、日赤奉仕団(赤口裁断)。

	寄付金	指定寄付金	誌代	合計
4月~1月	11,124,752	1,107,700	1,784,240	14,016,692
2月	636,144	0	110,656	746,800
計	11,760,896	1,107,700	1,894,896	14,763,492

### あとがき

☆表紙の写真はケアセンターさんかご利用者、好奇心旺盛でいつも広いホール内を縦横無尽に動き回っています。

☆柴田ひさ子様は、翻訳家。静岡英和学院大学短大や、清水看護専門学校などで教鞭をとられました。日本基督教団静岡教会会員。教会は、20年以上、教会学校教師として奉仕されました。訳書は、『キリスト教は同性愛を受け入れられるか』(共訳、日本基督教団出版局)や、『マンガ聖書の時代の人々と暮らし』(ハルプレス刊)など、多数。

☆新年になってから当法人でも濃厚接触者やコロナ感染者が出てきました。いろいろな面で制約が多くなっていますが、ご理解お願いいたします。(1)